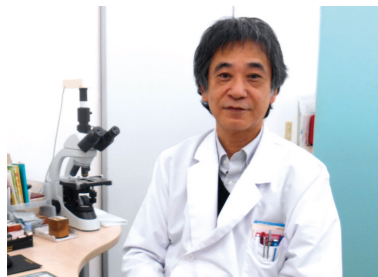


連携医院のご紹介

今回は、皮膚を通して地域の皆様の健康維持に貢献することを目指しておられる安芸郡熊野町の「はまもと皮膚科」濱本嘉昭院長にお話を伺いました。



濱本院長

はまもと皮膚科

〒731-4221
広島県安芸郡熊野町出来庭
10丁目4-4
電話/082-855-2662
院長/濱本嘉昭
診療科目/皮膚科、アレルギー科、
形成外科



はまもと皮膚科外観

○いつ開業されましたか。

出身は熊本県で山口大学医学部を卒業し、卒業後は大学病院に勤務しておりましたが、縁がありましてこの地に2006年4月に開業しました。

○開業されてから今までのことを教えてください。

来られている患者さんは、地域にお住いの赤ちゃんから100歳以上の高齢の方まで幅広く、皮膚科疾患の診断・治療をしています。疾患的には湿疹や皮膚炎、水虫などが多く、粉瘤や腫瘍性疾患の外来小手術も予約制で行なっています。また、いぼやほくろを取る治療も、数回に分けて行う液体窒素による治療のほかに、短時間での治療が可能なレーザー治療も行っており、患者さんの状況に合わせ、メリット・デメリットを十分説明した上で治療法を選択してもらっています。皮膚症状から内科やその他の病気が見つかることもありますので、皮膚トラブルのことから何でも相談してほしいと考えています。

○毎日の診療で大切にされている事は何ですか？

患者さんの負担にならないよう、早く診断をつけ可能な治療を行い、当院で完結できるよう心掛けています。クリニックの領域を超えた治療に及ぶ際は、

連携している県病院やその他基幹病院にご紹介させていただいておりますので、患者さんには、安心して受診してほしいと思っています。

○県病院はどんなところでですか。

高速道路が整備されており、時間もかからず行けるので、近いと感じています。どの科も何でも快く受けてくださり、また対応も気持ちよく、とても感謝しています。皮膚科だけでなく、小児科や他の診療科にも診て頂いており、整形外科では軟部腫瘍、うつ滞性皮膚炎では心臓血管外科で静脈瘤の手術をしていただいたこともあり、大変お世話になっています。



▲スロープから待合室へ

レーザー治療用機器▶

【取材後記】
先生がデザインされた熊のマークがとても愛らしく、穏やかで優しい先生のお人柄を象徴しているように感じました。入口のスロープは待合室まで続いており入りやすく、広くて明るい清潔感のあるクリニックでした。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

教えて Dr. 35 悪性リンパ腫

専門診療医による得意治療を紹介いたします。

◆悪性リンパ腫とは？

悪性リンパ腫は、リンパ球という血液細胞に由来するがんの1種です。種類はとても多く、100種類以上ともいわれています。悪性度や治療法も多種多様で、病変は小さくてもどんな治療も殆ど効果がなく、あっという間に致命傷となってしまうものもあれば、何もしなくても何年たっても殆ど変化のないものもあります。



最も多いタイプは、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫です。標準治療はRCHOP療法で、数ヶ月の化学療法が必要ですが、初期であれば、長期生存率(≒治癒率)は70~80%以上です。進行期でも50%程度と報告されています。この点をふまえると、早期に診断する事がとても重要です。

一方で、現実には、様々な理由で、確定診断にいたるまでに時間がかかってしまい、化学療法の施行自体も困難となり、救命できなくなってしまう方もいらっしゃいます。

その理由のひとつは、悪性リンパ腫の初期症状も多種多様であることがあげられます。



◆体中どの部位でも発生

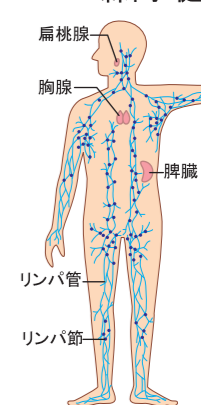
悪性リンパ腫では、白血球の一種であるリンパ球ががん化しています。リンパ球はもともと全身を駆けめぐり、細菌やウイルスなどを撃退する細胞なので、リンパ球ががん化した悪性リンパ腫の腫瘍は、全身どの部位でも発生する可能性があります。通常は首のリンパ節や足の付け根のリンパ節がはれることが多いですが、そのほかにも、皮膚、口内腔、胃、腸、目、脳、脊髄、末梢神経、骨、筋

臨床腫瘍科



臨床腫瘍科部長
もりおか たけひこ
森岡 健彦

肉、肝臓、膵臓、副腎、腎臓、精巣、乳房、子宮、脾臓、扁桃腺などにも腫瘍ができることがあります。腫瘍ができた所によって様々な症状がおきるので、その場合は、それぞれの臓器の専門科に受診する事になります。



◆診断が難しく、あらゆる症状で発症

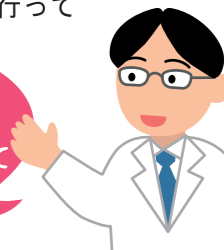
悪性リンパ腫の腫瘍細胞は、もともと血液細胞なので、血液中に他の血液細胞に混じって、流れていることもあります。一部の悪性リンパ腫では、これらの腫瘍細胞が集まって塊となり、血管を詰まらせて脳梗塞などを発症する事もあります。体中の体液、たとえば、胸水や腹水、心嚢水、髄液、骨髄液のなかに紛れ込んでいることもあります。これらのタイプでは、時に全く腫瘍を作らないことがあるため、その場合には診断はとても難しくなります。

また、リンパ球は免疫細胞ですが、がんになってもその能力の一部が誤って発揮されてしまうこともあります。高熱を引き起こしたり、薬疹が出やすくなったり、他の血液細胞を攻撃して、白血球減少、血小板減少、貧血を引き起こすこともあります。

このように悪性リンパ腫は、あらゆる症状で発症する可能性があり、他の様々ながんや膠原病、感染症などと区別が付き難いことも多いです。

当院では、血液腫瘍だけでなく、様々ながんの診断、治療を行っており、がん以外の疾患も幅広く対応可能となっております。この中から悪性リンパ腫も見出し、診断と治療を行っています。

診断が難しく様々な症状が出現した際には、かかりつけ医に相談の上、必要に応じて当院へ紹介してもらってください。



県立広島病院からのお知らせ

緩和ボランティア活動のご紹介

当院では緩和ケアボランティアが活躍しています。音楽療法の一環としてのコンサートの準備、ティータイムサービス、アロママッサージ、絵手紙教室、テラスの花壇の手入れなど、患者さんの日常を豊かに彩るお手伝いをしております。



院内ディスプレイ用の作品



アロマテラピー



絵手紙教室



屋上庭園の花

がんサロンについて

当院では、がん治療や緩和ケアを受けられている方とご家族を対象に『がんサロン』を実施しています。他の病院で治療の方もどうぞお気軽にご参加ください。

学習会では毎月テーマを変えて、がんに関する最新の情報を現役の医師や看護師などがお話しします。その他、コンサートやヨガなどの体操や自由にお話できる交流会を開催しています。

がんサロンの予定については当院HPもしくは、院内チラシでご確認をお願いします。



学習会



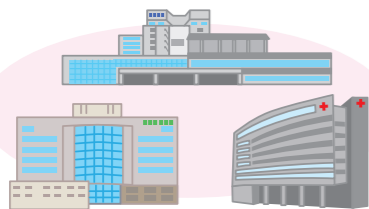
コンサート

◆悪性リンパ腫の診断

悪性リンパ腫の種類は、2018年のWHO分類第4版では、さらに細分化され、100種類以上ともいわれており、それぞれのタイプで悪性度・予後や治療法が異なります。このため、悪性リンパ腫は希少がんの集まりであるという人もいます。当科では、昨年は、40～50人の新規の悪性リンパ腫の患者さんの診断・治療を担当させて頂いております。

前ページでもご説明させていただきましたが、比較的診断が容易な初期症状の方もいれば、非常に診断に苦慮する方もいらっしゃいます。最終的に当科へ様々な形でご紹介頂いた際、病状が重く、治療を急ぐ場合には、特に確定診断まで待っていると手遅れになりかねない方の場合には、ある程度の診断がついた時点で、施行可能な治療から早急に治療を開始しております。一方で、時間的な余裕がある場合には、正確な診断がついてから、十分に病状説明の上で、治療を開始しております。

しかし、当院では長期間の無菌管理が必要な大量化学療法や造血幹細胞移植の必要な方の治療は行っておりません。急性白血病に近い悪性リンパ腫の方で無菌管理が必要な方、若年者のびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫やホジキンリンパ腫の再発で自家末梢血幹細胞移植併用の大量化学療法の必要な方の場合などでは、速やかに広島大学病院、または、広島赤十字・原爆病院、呉医療センターなどへご紹介しております。



◆治療について

悪性リンパ腫の中でも最も頻度の高いのは、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫です。世界的な標準治療は、RCHOP療法で、3週間に1回のRCHOP療法を6コース行います。全身状態に応じて、入院での化学療法を継続する場合もありますし、外来化学療法をおこなう場合もあります。病変によっては、放射線治療を併用することもあります。初期であれば、長期生存率（≒治療率）は70～80%以上です。進行期でも50%程度と報告されています。80歳以上の高齢者でもおよそ50%程度の量に減量して行うR mini CHOP療法では、生存期間は3年と報告されています。

再発した場合には、若年者であれば、自家末梢血幹細胞移植併用の大量化学療法の適応となるため、広島大学病院や広島赤十字・原爆病院、呉医療センターなどへご紹介させて頂いております。一方で、ご高齢であったり、合併症が多く、とても造血幹細胞移植の適応ではない方の場合には、各患者様の病状に応じ、RICE療法、daEPOCHR療法、RGDP療法、RCEOP療法などを行っております。この間、必要に応じて症状緩和治療も並行して行い、末期には、緩和ケア科や緩和ケア病院への転入院、在宅での見取りへの橋渡しなども行っております。

その他のリンパ腫に対しては、最近1年間では、ホジキンリンパ腫に対するABVd療法、マンツル細胞リンパ腫に対するVRCAP療法、原発性マクログロブリン血症に対するRB療法、濾胞性リンパ腫に対するGB療法、末梢性T細胞性リンパ腫に対するCHOEP療法、縦隔原発大細胞型B細胞性リンパ腫に対するdaEPOCHR療法、中枢神経原発大細胞型B細胞性リンパ腫に対するRMPV療法などを行っております。



外科医の独り言...no.102

— 二十八の瞳 —

新型コロナウイルスの脅威が全国に広がりつつあった2月26日の午後、県北の山間にある我が母校の西城小学校を、50年ぶりに訪れました。30数年ぶりに訪れた私を迎えてくれたのは、中学校の同級生W君、彼はなんとわが母校の校長先生だったのです。今回の訪問の目的は、6年生の授業にゲストとして出ることでした。わが母校の6年生は現在14名、確か私が小学6年生の時は60名くらいだったので1/3以下に減っています。

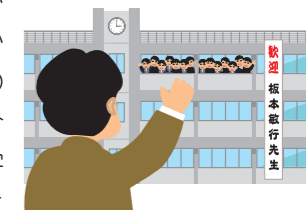
我が母校の6年生は、母校の卒業生、ふるさと出身者を呼んで「ふるさと西城を調べよう」という総合授業を行っているそうです。卒業生と現役の生徒が、仕事や人生などについて話し合う授業です。今年2月の初めに同級生であるW校長先生から、2月の終わりが3月の初めに是非お願いしたいとのメールがあり、事情を呑み込んでいませんでしたが、二つ返事で快諾しました。

授業が行われる日まで何度か担任のS先生からメールを頂き、授業の進め方を説明して頂きましたが、小学生と一緒に授業をするのは人生初だったので、緊張して教室に入りました。私の不適切な一言で、児童の人生を狂わす可能性もあります。いつもよりは慎重に、珍しく言葉を選びながら話し始めました。まずは自己紹介から、外科医であることを児童に説明するのが意外に難しく、なぜか「肝臓」の話までそれてしまいました。「小学生の時に得意だったことは？」という質問には即答、「缶けりとお寺の屋根に上ること、そしてお寺の軒下に潜り込むこと」、これは意外と受けました。「将来なりたかった職業は？」と聞かれこれも即答、「プロ野球選手がサッカー選手」。ただ、中学生になって野球部に入り、2年生から一応エースピッチャーになったが、近隣の中学校に、のちにカーブのピッチャーとして活躍したK選手が、そしてのちに甲子園で選抜優勝ピッチャーとなったもう一人

のK選手がおり、4チームしか参加しない県北の地区大会で一回も勝てなかったのが、野球をあきらめて、とりあえず勉強をすることにした、と話をすると、意外とみんな真剣に聞いてくれました。

「仕事をしていて困ったこと、そしてそれをどのようにして解決したか？」という質問には難渋しました。小学生にもわかりやすい具体的な例を挙げて説明すればよかったのですが、よい例を思いつきませんでした。結果的には、その時に困らないように、しっかり準備をして仕事に臨むこと、苦しい時が人生上り坂、と自分に言い聞かせながらやってきたこと、「まあ、なんとかなる」と思ってやって、結果的に何とかあった、という意味不明の回答になってしまいました。でも授業の最後には、「僕が憧れる予習王」など5つものありがたいキャッチフレーズを児童からもらいました。

授業が無事？終わって2日後、新型コロナウイルス感染のパンデミックを回避するために、全国の小中高等学校が一斉休校となりました。もし、この授業を3月初めにすると校長先生に言っていたら、生徒にとって幸か不幸か？私の授業は実現していなかったこととなります。校舎の前には、私を含む昭和45年卒業生が造った光の泉という噴水があります。経費節減のため水は出ていませんでしたが、ここ数日6年生14人が噴水の大掃除をしてくれていると校長先生から聞きました。突然休校となったあと、担任のS先生が児童宅を訪れ、休みの間何をしているのか、と尋ねたところ、中学校の予習をしていると答えてくれたと、S先生からメールが来ました。私との授業が少しは役に立ったのかもしれませんが。この14人を追いかけて今度は、母校の西城中学校の授業に行ってみようかと思っています。副院長(消化器センター長)板本 敏行



脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長 / 上田 浩徳

カンファレンスの内容をお伝えします!

冠動脈の慢性完全閉塞病変 (CTO: chronic total occlusion) に対する治療について【循環器内科 / 光波 直也】

近年の経皮的冠動脈形成術 (PCI: Percutaneous coronary intervention) のデバイス進歩により冠動脈の複雑病変 (CTO、左冠動脈主幹部分岐部病変、高度石灰化病変、多枝病変等) の治療が可能となっています。また、これら複雑病変に加え重症な全身疾患や心疾患を併せ持つ患者の冠動脈治療 [CHIP (Complex Higher-risk and Indicated Patients) Intervention] も可能となりました。

CTOは冠動脈が閉塞した状態と定義され(閉塞期間は3ヶ月以上または不明)、薬物療法を行っても狭心症状が残存し、CTO領域に残存心筋が証明される場合はPCIの適応と判断されます。CTOのPCIは非閉塞病変のPCIに比べ手技に伴う合併症(冠動脈穿孔、冠動脈血栓症・解離、被爆線量や造影剤の増加等)の頻度は上がりますが、CTOの治療が成

功した場合①心血管イベント発生率が低い②左室の収縮力が改善する③1年以上の長期の死亡率を低下させる等の報告がされています。治療には通常のPCIに比べ穿通性の良いガイドワイヤーを使用し、ワイヤーのサポート性を高めるために閉塞部位まで細いマイクロカテーテルを持って行き、閉塞部位に高度なテクニックを用いてワイヤーを通過させます。順行性 (Antegrade approach) に通過困難な場合は閉塞血管に側副血行を供給している他の冠動脈から逆行性 (Retrograde approach) にワイヤーを進めて行きます。このような方法を駆使して最終的に閉塞血管にステントを留置し、閉塞血管を再開通させます。

当院では、心臓血管外科との合同カンファレンスにより外科的冠動脈バイパス術を考慮した上で、CTOに対するPCIの適応を検討し、施行しています。

ご意見箱

通路が坂道で歩きづらい

南棟3階のエスカレーターからレストランまでの通路が坂道になっており、歩きにくいので、手すりをつけて欲しいです。

これからも皆様のご意見に対応していきます。

スロープの手すりのない部分に、手すりを追加で設置いたしました。尚、車椅子等で歩行が難しい場合は近くの呼び出しボタンでお知らせください。



追加した手すり インターホン